


私が社会の担い手

【実践者】

氏名	滝本 大翔	
学校名	茨城県立三和高等学校	
対象学年	3学年（64名）	
担当教科等	数学	
実践年月日もしくは期間(時数)	令和7年10月8日～11月29日（5時間）	

【実践概要】

1. 実践する教科・領域

総合的な探究の時間

2. 単元名と単元目標

① 単元名

私が社会の担い手

② 単元目標

生徒が社会に出たときに、地域や世界に対してどのように貢献していくことができるか考えられるようにする。

③ 関連する学習指導要領上の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。

(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

3. 単元の評価基準

① 知識及び技能

・地域や世界の課題、身の回りのモノがどこでどのように作られているのかについて情報収集することができる。

・自分の身の回りと世界の共通点と相違点について考えることができる。

- ② 思考力、判断力、表現力等
 ・地域や世界の諸問題について、その問題の原因は何なのか、どうすれば解決できるのか考えることができる。
- ③ 学びに向かう力、人間性等
 ・地域や世界の諸問題について、なぜ解決すべきなのか、解決しないとどうなってしまうのかについて考えている。
 ・今まで学んできたことを活かして、課題について考えている。

4. 単元設定の理由・単元の意義

- ① 単元設定の理由
 これから社会に出て、社会の担い手となる生徒たちが、ウガンダを通して日本と世界とのかかわりを知り、生徒自身が身の回りに対してどのようなことができるのかを考えることを通して、これからの生き方に自信を持ち、主体的に考えながら行動していくことを期待して、この単元を設定した。
- ② 単元の意義
 生徒観にもある通り、いままでの環境から、自己肯定感が低いと感じる生徒が多い。生徒が考える、生徒自身を楽しませてくれるものと言えば、スマホや「楽」をすることなどの短絡的な楽しみばかりで、努力・協力した結果、成果が得られたという楽しみには興味がないように感じる。本単元を通して、生徒たちには他に興味を持ち周りをよりよくしていくことのやりがいや、自分自身はその周りをより良くする一員だという所属感を感じて欲しい。
- ③ 児童/生徒観
 三和高校は、中学時代に不登校だった生徒、境界知能をもった生徒、外国籍の生徒たちも多く在籍しており、今まで成功体験があまり得られなかったから自己肯定感が低いと感じる生徒が多い。進路面に目を向けると、生徒の卒業後の進路はほとんどが就職であり、職種は地域柄か製造職が多い。就職を目指す生徒たちから聞こえてくるのは、「自分たちが働けるのは工場しかない」といった、後ろ向きな選択をした言葉が多い。
- ④ 指導観
 自分自身の身の回りの物が、世界中の人たちや地域の人たちに支えられていることや、逆に地域の工場が社会にどう役立っているのかを知ることを通して、自身がこれから社会の担い手の一員として生きていくことを自覚し、自信と誇りを持ってほしい。学んだことを種に、世界・地域の諸問題に関心を持ち、それを考え、解決する一員となってくれることを望む。

5. プログラム計画

回	テーマ ねらい	方法・内容	使用教材等
1	世界がもし100人の村だったら ねらい:世界の多様性と貧富の差について知る	「世界がもし100人の村だったら」のワークショップを行う。 ・世界の人口について ・世界中の言語について ・世界の識字率 ・富の格差について	・ワークショップ版世界がもし100人の村だったら ・パワーポイント ・ワークシート
2	① ウガンダクイズ ② フォトランゲージ ねらい:知らないことと肯定的に	教師が現地体験したことなどからクイズを行う。 現地の写真を使って	・パワーポイント ・ワークシート

	出会う	・日本との共通点 ・日本との違い ・もっと知りたいと思うこと について話し合う。	
3 本時	モノはどこからきているの？ ねらい:日本のモノと世界の繋がり について考える	「モノはどこからきているの？」 のワークショップを行う。 日常で使われているものについ て、どこの国と関りがあるのか調 べる。	・「モノはどこからきて いるの？」ゲーム ・ワークシート
4	世界で活躍する日本 ねらい:世界で活躍している日本 の人・モノについて知る	内定先の企業、三和高校の就職 先として多い企業の製品がどう いったところで使われているか 調べる。	・パワーポイント ・ワークシート
5	私が社会にできること ねらい:「私」が地域・世界にできる ことについて考える	・新聞記事のコンパス分析 ・問題に対して自分自身ができる ことについて考える	・新聞記事 ・ワークシート

6. 本時の展開

時間	3時間目		
本時のねらい	日本のモノと世界の繋がりについて考える		
過程 (時間)	教員の働きかけ・発問および学習活動・指 導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	・前回までの内容、目標の確認 ・本時の目標、これからの目標の流れの説明 ・ルール説明		
展開 1 (15分)	・グループワーク グループごとに「モノはどこからきてい るの？」のアクティビティを行う。 正解したらその国のあいさつをする。	・12グループに分かれて2 グループごとに教員を1名 配置する。 ・1人3回ずつ挑戦して全員 が回答できるようにする。	・JICA 教材 「モノはどこから きているの？」 カードゲーム
展開 2 (25分)	・ワークシート 身の回りのものがどの国とかかわりがある か調べる。 一番多くの国の名前を挙げることができ たチームを優勝にする。 原材料だけでなく、加工がどこの国で行 われているのかについても発問する。	・なかなか進まないグルー プには教員からお題となる モノを提示して調べさせ る。	ワークシート
まとめ (5分)	・各グループの点数の集計 ・振り返りの記入 ・次回以降の説明		

7. 評価規準に基づく本時の評価方法

- ・ワークシートで、普段使っているモノが様々な国の協力の下で作られていることを理解しているか評価する。
- ・振り返りシートで、世界の国々が協力し合うことが大切であることを理解しているか評価する。
- ・グループワークの様子で主体的に学びに向かっているか評価する。

8. 学校外との連携

- ・古河市役所企画課
- ・三桜工業株式会社

9. 生徒の学びの軌跡

○第1回「世界がもし100人の村だったら」

～生徒の主な感想(原文のまま)～

・世界には1人1人いろいろな人がいて、周りの人々と助け合って生きていることが分かった。・飢えている人が意外にも多くて心配。・言語は英語がいちばんだと思ってたからちがくてびっくりした。・複雑だと思う。・金があると人は変わる。・おれという1人の人間は弱い。・今どれだけ幸せかがわかった。・100人村には様々な人種や言語があり、誰が何の役割を持っているのかを知らないのだから、挨拶をすることでこの国の人かが分かりました。いろいろな人と協力することでうまくやることができました。・文字を読めない人が多かったり、お金を持っていない人が多いことが分かり、これからの世界が心配だった。・一人一人が幸せであるべきで、一人一人が色も全部違うのでそれをみんな理解しておくのと犯罪だって起きないし、自分も抑えられると思う。・言語が違う人や、違う国の人がたくさんいて大変だった。自分は言葉が読めなくて、同じ言語の人がいない子ども役だったので、とても生きづらいなと感じた。・少し世の中に対しての知識が増えてよかったです。

○第2回「ウガンダクイズ・フォトランゲージ」

～印象に残ったこと～

・ウガンダと日本は思ったより似ていると思った。・日本と同じところがあり驚いた。
・主食も違い、学校の様子も違った。・共通点が多かった。・学校が日本とは違っていた。
・交通量、特にバイクが多かった。・日本の車が海外にもあること。・いろいろな国が協力していてびっくりした。・日本の信号があって誇らしい。・メディアで受ける印象とはちがいで、アフリカの社会が発展していることが分かった。

～もっと知りたいこと～

- ・ウガンダに対して日本はどのような支援ができるのか。・観光スポット
- ・ウガンダの学校について ・ほかにはどんな場所があるのか

～あなたが今、考えている進路先で、地域や世界に対してどのような支援ができるか？～

- ・募金 ・ボランティア活動 ・植物 ・教育や技術を伝えに行きたい。

○第3回「モノはどこからきているの？」

～あなたはどのように地域や日本、世界に貢献できるだろうか？～

- ・様々な国の状態を理解して、足りない分は国同士で補う。
- ・ゴミを拾う ・国への募金 ・地域のボランティア ・自分が作ったものを海外にとばす。
- ・はなしあい ・様々な方向から物事を考えることを続ける。
- ・会社でちゃんと働いて、会社の製品を世界中に届けていきたい。
- ・日本の技術を世界のために使う。 ・いらぬモノを寄付する。

○第4回「世界で活躍する日本人・モノ」

～今日の授業を終えて、人類共通の課題を解決し、持続可能な未来を実現するために、これからあなたができること、したいこと～

- ・課題を解決するには一人で行えることもあるが、周囲の人々と協力して解決できることもあり、協調性が大切だと知った。周囲の人と助け合いながら、課題を解決していきたい。
- ・現地に行って環境整備をしたり技術を伝えたり、一緒に活動したいと思った。最もしたいと考えたのは、やはりその国の子どもたちに授業を行ったり、教育の場を作りたい。そこで人とのふれあいや自己成長のために様々なことを学びたいと思った。
- ・自分でも、支援している団体を探したり、調べたりして、理解や知識を深めていきたい。

- ・問題解決に取り組む団体の講座やイベントに参加したり、応援したりする。
- ・ほかの国に実際に行って学ぶ。・建築学を学ぶ。・平和に暮らす。
- ・ボランティアや寄付などの直接的な活動をする。・水を大切に使う。

○第5回「『私』が地域・世界にできることを考えよう」

～地域・世界の課題を発見・解決するために取り組みたいこと～

- ・現地調査など自分から行動して、周りの人に現状の深刻さを伝える。
- ・いろいろな物事に触れ、自分で見たり体験したりする。支援をしている団体や地域の人などと協力して何かをやってみる。・新聞やニュースを見る。
- ・それぞれの国の良さや課題があるため、他の国とそれを補っていけるようにするために、自分自身が自分の国をよりよくするようにする。・呼びかける。
- ・自動販売機を災害対応型自動販売機にしていく。・ゴミを分別する。
- ・みんなの目に触れられるような形(パンフレットなど)にして、みんなに知ってもらう。
- ・キャップを集める。

10. 自己評価

① 成果が出た点

全5回の授業を通して、これから社会の担い手となる生徒自身が、これからの地域・社会に対して何ができるか考えてもらいたいという思いで授業を行った。毎回の授業の振り返りで似たような問いを問い続けて、授業ごとに生徒の反応が変わっていく様を見ることができたことが、私自身の中で大きな成果だった。私の学校では、授業改善のテーマに上がるほど、普段の授業で生徒の知識が重なっていかないことが課題だった。しかし、今回の授業を通して、同じ問いに対してじっくり時間をかけていくと、生徒に沁みっていく感覚をつかむことができた。

② 苦勞した点

一番は60人を一斉に授業する点が難しかった。普段の授業を少人数で行っている分、全体の感触を得ながら授業を進めることにつまずいた。今回は学年の先生方に多大な協力をいただき、何とか進めることができた。

③ 改善点

生徒の理想像に近づくために設定した目標に対して、もっと良いアプローチの仕方があったのではないかと感じた。次年度は、3年生で行っている課題研究と絡めるなどして、より生徒が授業を受ける必要感のようなものを感じられるようにしたい。

④ 自由記述

生徒に伝えたいことを厳選したつもりでいたが、生徒に沁みっていくためという視点で違った厳選をすればよかったと感じた。この授業を行う上で得た学びは、自身の教科教育にも通ずる学びであった。自身が描く生徒の理想像に向けた適切な目標設定の精度を上げていきたい。

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・学校内でウガンダコーナーの設置
- ・学校公開日で本実践授業を実施
- ・実践授業の内容を校内の先生方と相談

12. 自由記述

本研修で学んだことが多かった分、生徒に伝えたいことが、あれもこれもと浮かんで来て、まず、授業を通して何を伝えるかを厳選することが難しかった。また、総合的な探究の時間という不慣れなところで授業を行ったので、どのような活動を通して生徒に伝えるか、方法に悩んだ。悩んだときに助けられたのは、研修中に頂いた、「世界と肯定的に出会う」、「自分がかもやもやしたことは生徒と一緒に考え

る」などの言葉だった。世界共通の課題を抱え、解決に向けて協力関係にあるウガンダ、広くは世界の国々というように捉え、世界共通の課題、地域の課題に対し、自分たちはどのように向き合っていかなければならないのか、考えるきっかけを生徒が少しでも持てていければ嬉しい。

私自身、本研修に参加できたことで、様々なことを知る機会を頂き、参加前と後では世界を見る視野が広がった。さらに視野を広げるために、今後も様々な研修に参加していきたい。また、今年度同様の実践授業を計画的に行っていきたい。

13. 参考資料

資料名	著者名等	出版元、URL 等
2024年度 ウガンダ教師海外研修 実践報告書		独立行政法人 国際協力機構 筑波センター(JICA 筑波)
JICA 中部 教師海外研修 ガイドブック	執筆:NPO 法人 NIED 編集:国際理解教育センター	独立行政法人 国際協力機構 中部センター(JICA 中部)
ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら 第7版	編集:100人村教材編集委員会	認定特定非営利活動法人 開発教育協会(DEAR)
『モノはどこからきているの?』カードゲーム		独立行政法人 国際協力機構 東京センター(JICA 東京)

14. 本時で使用した資料

【資料1】授業で使用したワークシート(第1回～第5回)

ウガンダ実践授業 第1回「世界がもし100人の村だったら」

() 聞く () 答へる ()

課本勉強は、夏休み中にウガンダへ行ってきました。そこでたくさんのお話を聞いて、皆さんに伝えたいことと、一緒に考えたいことがたくさんありました。そこで、10月～11月の10日、キャリアの授業で、全クラス(学級)の授業を行います。

これらの授業を通しての大きな目標は、
「自分が学業を通して、どのように地域・社会に貢献することができるか考えよう」です。
第1回となる今回は、「もしも100人の村だったら」というワークショップを行います。

「世界がもし100人の村だったら」ワークシート

目標：世界の多様性と異文化について知ろう

Q1. 世界の人口は、増加傾向にありますか？

あなたの考え _____ 個人 _____ 個人

増加傾向 _____ 個人増加として考えていきます。

Q2. アジアの人口は世界の割合に占めるでしょうか？

① 約40% ② 約60% ③ 約80% あなたの考え _____

Q3. 次の国を世界でより多く人が住んでいる順番に並べてみましょう。

① スイス ② 英倫 ③ ヒンディー ④ 中国

あなたの考え _____ → _____ → _____ → _____

答え _____ → _____ → _____ → _____

Q4. 100人村を体験して、どのような気持ちになりましたか？または、どんな疑問もでもって質問してはもらって構いません。また、その理由もメモ書きしてください。出てくるものが無い場合は、自由に書き添えてください。

感動している	うれしい	びっくりしている	くやしい
驚いている	驚いている	おもしろい	おもしろい
面白い	ウケた	ウケた	面白い
もっと知りたい	面白かった	面白かった	

疑問点/感想 _____

理由 _____

Q5. 100人村の運営を自由に書いてみてください。

ウガンダ実践授業 第2回「ウガンダクイズ・写真から考える」

() 組 () 番 名前 ()

この授業全体の大きな目標は
「自分が卒業してから、どのように地域・社会に貢献することができるか考えよう」

でした。前回の第1回目の「世界の多様性と貧富の差について知ろう」は達成できていましたか？
 第2回目の本日は実際に歩いてきたウガンダ、クイズやアクティビティを行います。
 今日の目標は「知らないことと肯定的に出会おう」です。

1. ウガンダクイズ

Q1. ウガンダの国語は何でしょう？

あなたの答え _____ 正解 _____

Q2. ウガンダの国鳥は何でしょう？

あなたの答え _____ 正解 _____

Q3. ウガンダでの主な主食は何でしょう？


あなたの答え _____ 正解 _____

Q4. ウガンダにある貨幣単位は何でしょう？

あなたの答え _____ 正解 _____

2. 写真から考える

Q1. 次の写真はウガンダの道路の様子です。以下の質問について考えてみましょう。



○ 日本と同じところはどこでしょうか？

○ 日本と違うところはどこでしょうか？

○ 撮影に苦労したところはどこでしょうか？

ウガンダ実践授業 第3回「モノはどこからきているの？」

() 組 () 番 名前 ()

1. 目標の確認

○全体的目標：「自分が卒業してから、どのように地域・社会に貢献することができるか考えよう」

○本日の目標

第1回：「世界の多様性と貧富の差について知ろう」
 第2回：「知らないことと肯定的に出会おう」
 第3回：「日本のモノと世界との繋がりについて考えよう」(本日の授業)
 第4回：「日常で目にする日常のモノ・モノについて知ろう」
 第5回：「日常」が地域・社会を支えていることを考えよう。

○どうして日本のモノと世界との繋がりを考えることが、地域・社会の発展に貢献するのかわかっていますか？
 →日本での自分たちの生活の背景やモノの産地や流通の仕組みを知ることが、どのように生活や消費行動を促すことにつながる。

1. 「モノはどこからきているの？」カードゲーム

○ルール

- ・各席の1番左の人の順にカードを引きます。
- ・まず、モノ(製品)カード(消費)を引きます。好きなカードを2枚選びます。
- ・次に、そのモノに関連するモノを消費し、消費カード(消費)を引きます。引かれたモノを消費し、消費カード(消費)を引きます。
- ・消費カードを引くまでやり、消費カードを消費し消費カードを引きます。
- ・消費カードを引くまでやり、消費カードを消費し消費カードを引きます。
- ・消費カードを引くまでやり、消費カードを消費し消費カードを引きます。
- ・消費カードを引くまでやり、消費カードを消費し消費カードを引きます。

○まとめ

あなたの役割 _____ 役

消費に携った...

製造： _____ 原料： _____ 労務： _____

販売： _____

2. 身の回りにあるモノはどの国から来ているの国々？

○国名を書き

・身の回りにあるモノの国名を1つ選び、おのりのある国を調べよう。なるべくたくさん！

国々をモノ _____

・おのりのある国 _____

・おのりのある国 _____

・おのりのある国 _____

・おのりのある国 _____

○グループ発表

- ・自分が調べたモノのグループを発表しよう。(発表の)順序の人数順に発表しよう)
- ・発表が終わったら、グループ内で質問の国が来たか、読んでみましょう。

グループ内の役割 _____ 役割

3. 振り返り

○今日の授業を振り返って、印象に残ったことを書きましょう。

○ 中国は日本が持っている生産事業について紹介しました。
 あるいは、考えている活動先で、地域や世界に及ぼすような活動ができると思いますか？
 どのようなことか書いておいてください。

Q1. 次の写真はウガンダの学校の様子です。以下の質問について考えてみましょう。



○ 日本と同じところはどこでしょうか？

○ 日本と違うところはどこでしょうか？

○ 撮影に苦労したところはどこでしょうか？

3. まとめ

○ 授業を振り返って、印象に残ったことを書きましょう。

○ もしも知りたかった場所やことを書きましょう。

ウガンダ実況授業 第4回 「世界で活躍する日本人・モノ」

（ ）組（ ）番 名前（ ）

6. 目標の確認

○全体目標：「自分が卒業してから、どのように地域・社会に貢献することができるか考えよう」

○各回の目標

第1回：「世界の多様性と自国の恵みについて知る」

第2回：「知らないことと得意な得意か」

第3回：「日本から」と世界との関わりについて考えよう」

第4回：「世界で活躍する日本人・モノについて知る」(本日の課題)

第5回：「[国]の発展・発展にできることを考えよう」

→世界の活躍する日本人・モノについて知り、私たち日本人が活躍の課題を解決し、自国に貢献できることを考える。

1. デイモンダランキング

○人類共通の課題を解決し、持続可能な未来を実現するために、私たちができることはたくさんあります。一人でできること、仲間とできること、遠征すること、継続的にすること、さまざまな方法で、以下のような方法について、あなたが出来る（得意なところ）を記入してください。

1位
2位
3位
4位
5位
6位
7位
8位
9位
10位

2. 課題の解決

○課題はどのような方法で解決する？

○それを解決する方法への関心はどのくらいある？

○それを解決する方法への関心はどのくらいある？

3. デイモンダランキング その2

○これまでの課題を振り返り、他の行ったデイモンダランキングから自分の考えが変化したら、異なる色ペンでそのデイモンダランキングに書き直しましょう。

4. 人類共通の課題を解決し、持続可能な未来を構築するために、[国]ができることは？

○今日の授業を通して、これから取り組むべきこと、もしくはしたいと思ったことを書きましょう。

ウガンダ実況授業 第5回 「[国]が地域・世界にできることを考えよう」

（ ）組（ ）番 名前（ ）

6. 目標の確認

○全体目標：「自分が卒業してから、どのように地域・社会に貢献することができるか考えよう」

○各回の目標

第1回：「世界の多様性と自国の恵みについて知る」

第2回：「知らないことと得意な得意か」

第3回：「日本から」と世界との関わりについて考えよう」

第4回：「世界で活躍する日本人・モノについて知る」

第5回：「[国]の発展・発展にできることを考えよう」(本日の課題)

→ウガンダの現状から、地域や世界に対して、「[国]」ができることを考える。

1. ウガンダの現状

○スライドで学んだことのまとめ

ウガンダは高い人口増加率を維持し、国民の平均年齢が極めて若い国の一つです。

○ウガンダにはどのような課題があるのか知り

① 食料不足

② 教育の不足

③ 医療の不足

④ 環境問題

⑤ 経済問題

⑥ 社会問題

⑦ 政治問題

⑧ 文化問題

⑨ 宗教問題

⑩ 民族問題

⑪ 言語問題

⑫ その他

2. 課題の解決

○課題はどのような方法で解決する？

○それを解決する方法への関心はどのくらいある？

○それを解決する方法への関心はどのくらいある？

3. 未来から「[国]」ができること

○国や地域、国際社会で活躍するための課題を解決して、持続可能な未来を実現しようとするためには、どのような課題を解決する必要がありますか？

○国や地域、国際社会で活躍するための課題を解決して、持続可能な未来を実現しようとするためには、どのような課題を解決する必要がありますか？

○国や地域、国際社会で活躍するための課題を解決して、持続可能な未来を実現しようとするためには、どのような課題を解決する必要がありますか？

【資料2】授業で使用したスライド(一部)

基本情報の比較

表1. A.D.人口構成の比較

国土面積

● 日本：本州の面積

● ウガンダ：日本の本州とほぼ同じ規模

人口

● 日本：約1.2億人

● ウガンダ：日本の半分以下

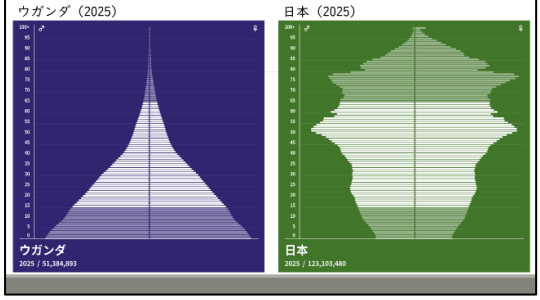
人口構成

● 日本：年少人口が少ない

● ウガンダ：若い人口が多数

「若者の国」として特徴付けられるウガンダの人口の約8割が15歳以下

ウガンダは高い人口増加率を維持しており、国民の平均年齢が極めて若い国の一つです



ウガンダにはどのような課題があるだろうか？

① 新聞記事などから、ウガンダにはどのような課題があるのか調べよう。

② 気になった課題を1つ取り上げ、原因だと考えられることをまとめよう。

③ まとめ終わったら、グループで共有しよう。

もし、あなたがウガンダの若者だったら

あなたはウガンダの若者です。学んだように、現在のウガンダにはさまざまな課題があります。これからの社会の担い手として、あなたは何に携わり、ウガンダをどのようによりよくしていきますか？